

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要】事業所記入欄			
事業所番号	4079800290		
法人名	株式会社 田中組		
事業所名	グループホーム 森の聖		
所在地	福岡県築上郡上毛町下唐原2187番地		
自己評価作成日	平成22年4月26日	評価結果確定日	平成22年8月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階
訪問調査日	平成22年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を自然に囲まれホームのどの窓からも季節を感じることができる。また、2ユニットの建物をつなぐように広いウッドデッキがあり、気候や天気の良い日には体操やレクリエーションなどを行ったり、入居者が思い思いに自由な時間を過ごせるようになっている。中庭やウッドデッキにて入居者と職員が一緒に草花を育て、水やりや草取りなどの役割を持ち成長や開花の喜びを共有している。解放感のある施設内外にて、四季を感じながらゆっくりとした時間が過ぎる中で穏やかに、心豊かに日々を過ごしていただけるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台にある「森の聖」からは、大分県中津市の町並みや遠く周防灘までを眺めることができる。周囲には田畑や果樹園等があり、また敷地内も広く、自然に恵まれた周辺環境の中で、四季折々の変化を直接感じることが出来る。また、椅子やテーブルが置かれ、余裕あるスペースが確保された玄関ホールや、ユニット間の広いウッドデッキが特徴的なホームである。前回評価以降、アセスメントツールとしてセンター方式の一部活用や、記録様式の工夫・充実へ取り組んでおり、新たな気づきを得る場面も増えてきている。反面、職員育成への取り組みは課題として残っており、研修体制の充実等、質の向上に向けた、事業所・職員の積極的な姿勢が期待される。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「満足した日々」「その人らしさ」「笑顔を添えて」という理念を作り、玄関ホールやスタッフルームに掲示し目に触れるようにすると共に、日々のケアに入る前に目を通すようにしている。	理念を目に付きやすい場所に掲示し、日々確認できるようにしている。理念の実践に向けて、アセスメントの充実等、具体的な取り組みが行われている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や事業所行事への案内により交流を図っている。	周辺には民家は殆どないため、日常的な交流は難しい状況にあるが、花や野菜を届けてくれる方と一緒にお茶を楽しんだり、地域に伝わる馴染みの行事等に参加している。	地域でのネットワークを広げながら、地域に出向いたり、ホームに招いたり活動と継続して取り組んで欲しい。また、地域に向けた情報発信等により、地域拠点としての役割を担ってほしいよう、今後の活動に期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎に入居者家族・民生委員・市町村職員の参加にて定期的開催している。利用状況や行事等の報告や意見交換を行ないサービス向上に活かしている。	定期開催されている運営推進会議では、入居者状況や活動予定・報告、介護保険に関する議題にて話し合いが行われている。	運営推進会議のメンバー構成の多様化や議題の工夫等により、状況・活動報告だけでなく、地域に開かれた事業所としての実践的な活動にもつなげて欲しい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外にも健康福祉課・生活保護課との連携を行い、サービス向上のための情報交換に努めている。	町役場や福祉事務所、福岡県等の担当者へ相談したり、助言を得ながら情報を収集し、サービスの向上につなげるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中鍵をかけないケアを実践しており、身体拘束も行っていない。所在確認を徹底すると共にさりげない見守りを行なう等の安全面の配慮を行いながら自由な暮らしを支えている。	玄関にはブザーが設置され、日中は施錠していない。外出傾向の把握に努め、見守り、寄り添いながら安全面の配慮を行っている。	管理者は、職員個々に、日々の暮らしの中での助言・指導を行っている。身体拘束に関する研修の機会はなく、日々のケアの確認や、認識を高めていく機会の確保が求められる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている				

福岡県 グループホーム 森の聖

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している		現状として、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している方はいない。内部研修実施や外部研修参加後の伝達研修等の実績はなく、職員全員の意識・知識を高めていく取り組みが求められる。	権利擁護に関する制度について、必要となった場合に活用に向けての支援が行えるよう、体制の整備に向けた具体的な取り組みが求められる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時や電話連絡の機会には常に問いかね、意見を言いやすい関係づくりに努め、運営に反映させるように取り組んでいる。	ホーム内には、関係機関相談窓口のポスターを掲示している。家族来訪時には、意見の言いやすい関係作りに努め、意見や要望があった場合には、職員に周知し、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを定期的で開催している。	職員ミーティングでは積極的な発言を促し、また運営者による職員ヒアリングを実施する等、職員意見を吸い上げるよう努力し、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して、年齢や性別等を理由に対象から排除をしていない。人柄ややる気を重視し、個々の能力が発揮できるように配慮している。	職員の採用にあたっては、人柄ややる気、認知症ケアへの姿勢等を重視しており、年齢や性別による排除は行っていない。	内外の研修参加や資格取得への支援、地域関係者との交流の機会の確保等、職員のモチベーションを高めていくための取り組みも必要と思える。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる		管理者により、その都度指導や助言が行われている。ホーム全体として、入居者の人権尊重について、継続して考えていく取り組みが求められる。	高齢者虐待防止や身体拘束について、また認知症に関する研修も含め、入居者の人権尊重について、職員全員で意識・認識を深めていくよう取り組んで欲しい。

福岡県 グループホーム 森の聖

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政等による研修に管理者が個々の能力に合わせ参加させている。また、研修で得た情報は報告書で共有し、日々のケアに取り入れ個々の知識・技術の向上を図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者や管理者は、県内外の他事業所への訪問や連絡を行い、サービスの質の向上に活かしている。地域での同業者との交流に関してはケアマネ連絡会などに参加することでさらに深めることができるようにしていきたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後、密に交流を図る機会を持ち、会話や行動などの中で本人の不安や心配事・要望などを把握し、早期に対処することにより、本人との信頼関係を構築できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に家族の思いを時間をかけて聴くようにしている。知り得た困りごとや不安・要望など対しては随時連絡をとり、対応策を共に考え、少しでも安心していただけるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや本人の状態に合わせ、今必要なサービスを判断し、柔軟な対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者である入居者から、調理の仕方や慣わしなど、日々の暮らしの中で学ぶ場面が多くあり、また、その場面作りに努めている。今後も学び、支えあう関係を大切にしていきたいと考えている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には来苑時は日頃の生活状況や変化など随時報告し情報の共有をすると共に、必要時には支援の依頼を行なっている。面会時には、家族でゆっくりと会話ができるように援助している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の本人の生活区域へのドライブや知人面会時には再度の来苑のお願いを行なっている。	地域に伝わる馴染みの行事に、入居者とともに参加しており、関係性の継続への働きかけを行っている。家族訪問時には、ゆっくりと会話ができるよう配慮している。	

福岡県 グループホーム 森の聖

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で密に情報交換を行ない利用者同士の関係を把握し、孤立することなく、利用者同士が良い状態で関わりが持てるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの情報を得られる時は、初回の面接時や入居後の会話の中で把握に努めている。困難な場合は、家族からわかる範囲の生活歴や得意分野の情報を収集し、その中から希望や意向をみいだせるように努力している。	前回評価以降、センター方式を一部活用しながら、アセスメントを実施している。また介護日誌にも、日々の職員の気づきを記載し、職員間での共有に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族がなく聞き取りが難しい人が多いが、入居に至るまでに関わりを持った方々から情報を提供していただき把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や職員間の情報交換にて1人ひとりの現在の状態の把握を行なっている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いや要望を大切に、ケア検討会やカンファレンス等で話し合いを十分に行い、個別・具体的な介護計画を作成している。	本人・家族の意向を踏まえ、担当職員による課題が抽出され、具体的なサービス内容が記載されている。3ヶ月ごとに、モニタリング・評価が行われ、日々の記録等をもとに、介護計画の見直しに活かしている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に、日々の暮らしの中での気づきや変化を記録し、職員間で共有しながら実践や計画の見直しに活用している。		

福岡県 グループホーム 森の聖

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズにより、医療機関への受診や買い物等への同行等、柔軟に支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医との関係を大切にしながら、協力医療機関も含めた連携により、適切な医療が受けられるように柔軟に支援している。歯科・内科・精神科・皮膚科等の定期的な往診や受診体制がある。	協力医療機関による月2回の往診があり、歯科についても随時往診となっている。本人・家族の希望する医療機関への受診も支援しており、適切な医療活用となるよう取り組んでいる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関への通院・往診にて利用者の情報が常にあるようにしている。担当職員が付き添うことにより馴染みの関係ができて情報交換もスムーズに行なっている。入院時は1～2回/週面会のため訪問している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居開始時から重度化や終末期の対応に関して、関係者で話し合いを行い、方針の共有に努めている。状態の変化に応じて本人・家族の意向を大切にしながら、医療機関との緊密な連携に努めている。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所としての方針を説明している。協力医療機関との連携体制の構築に努めながら、状況の変化に対応している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			

福岡県 グループホーム 森の聖

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、年2回の避難訓練を定期的に行っている。	年2回、避難訓練を実施しており、スプリンクラーについても設置済みとなっている。民家が殆どない周辺環境の中にあるが、運営推進会議で災害時についての話し合いを行っている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人ひとりが人生の先輩であることを頭におき、子供扱いをせず個人の人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねることがないように、声かけや対応を心掛けている。	声かけや対応について、管理者による日々の指導や、職員間での振り返りの機会を持っている。記録等の個人情報の取り扱いについても、事務所にて保管・管理が行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で密に会話の機会を持ち信頼関係を構築することにより本人が思いや希望を表しやすいように、また、常に声かけを行い本人の意思を確認して行動に移すように心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のスケジュールは用意しているが、1人ひとりの希望や状況により柔軟に支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や天候などを考慮し本人と一緒に意見を聞きながら準備している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嗜好を把握し、また個人の希望も聞きながら季節の旬のものが食べられるようにしている。個人の能力に合わせ皮むきやお盆拭き・台拭きなどを一緒に行なっている。	ホーム畑で収穫された野菜や、近所の方々からも差し入れを頂きながら、旬の食材をメニューに取り入れている。また、おやつ(たこ焼き・ホットケーキ・ドーナツ等)を手作りし、食事を楽しむ機会を持っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一汁三菜を基本に塩分量を控えた食事を提供、個人の嚥下状態に合わせ食事準備や介助を行っている。食事や水分量を個別に記録し職員間で情報を共有している。		

福岡県 グループホーム 森の聖

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい・歯磨き・義歯洗浄など個人の口腔状態や本人の能力を把握しケアを行い清潔の保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や行動などの観察を行うことで排泄のパターンを把握、他のスタッフと情報を共有し、その人のパターンに合わせトイレ誘導を行なっている。	排泄チェック表により、一人ひとりのパターンの把握に努め、サインを見逃さないようにしながら、トイレ誘導を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜や水分を多めに摂っていただいたり、適度な運動(歩行)を促している。排便3日目には医師と相談し緩下剤の服用を行なっている。今までの快便につながる生活習慣や食物などがあればホームでも対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	フリーで行なうことは困難な為、月～金・午後1～4時の間で週2回の入浴となっているが、体調や希望などにより曜日や時間など柔軟に対応している。	基本的には、週2回、午後入浴日時の設定を行っているが、一人ひとりの希望や体調にあわせて柔軟に対応するよう努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共同生活ではあるが、その人の生活習慣を把握し、また、健康状態の観察や個人の訴えに応じ休息や安眠がとれるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「お薬の説明書」や医師の指示などで薬の目的や副作用・用法や用量を理解し、薬にあった服用方法で服薬の介助を行っている。服用後の症状の観察を行い変化を記録すると共に受診時に医師へ報告を行なっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むきやお盆やテーブル拭き・おやつの手作り等に入居者の状態や能力に合わせ役割を持っていたり、年間行事や誕生会・日々のレクリエーションなどが張り合いや楽しみにつながるようにしている。		

福岡県 グループホーム 森の聖

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの希望や状況・天候に応じてホーム内や周囲への散歩(敷地内が広く、緑豊かな環境にある)の支援は随時行なっている。遠方への外出希望等は家族と相談し希望をかなえられるようにしている。	ホームとして広大な敷地を有しており、介護計画に取り入れながら、日常的に散歩に出掛けている。近隣のスーパーや大型商業施設等への買い物、受診の際の往復の時間を楽しんでいる。	
52		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さは理解できるも、持つ事によるトラブル(紛失・他の入居者や職員に盗まれた等)の方が入居生活に支障をきたす為家族や施設預かりとしている。		
53		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	依頼があれば時間帯や家族の意向に沿って支援の予定はあるも現在まで依頼はない。		
54	(22)	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間やユニット間のウッドデッキは余裕をもって造られており開放感があり、穏やかな雰囲気包まれている。中庭や施設周囲には自然が豊富で各窓から四季の移り替わりを感じ見ることができる。	掃除や換気に十分に配慮された共用空間は、清潔感がある。リビングにはソファや畳スペースが配置され、またユニット間をつなぐようにウッドデッキが設けられている。桜の木を中央に配した中庭では、入居者とともに花や野菜が育てられており、四季折々の彩りを見せる。広い玄関ホールや廊下には、アンティークな家具やピアノ、椅子等が置かれており、静かに過ごせる空間となっている。	
55		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士を同じテーブルに配置し会話の機会が持てるように配慮している。また、ソファや畳の間・廊下や玄関前のフロアに椅子の設置があり独りで過ごすことも出来るようにしている。		
56	(23)	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベットとクロゼットは常備されている。それ以外のものは個人の馴染みの物が持ち込まれその人の状態や好みに合わせ配置されている。	状況によっては課題もあるが、セミダブルベッドが配置されている。使い慣れた筆筒や、大切な品が持ち込まれているが、全体的にシンプルな居室が多い。	
57		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部は段差をなくし、ドアはスライド式、廊下やトイレ浴室などには介助バーを設置して筋力の弱い入居者が安全かつ出来るだけ自立して生活が送れるようにしている。トイレや居室には名称を表示している。		